

# 持ち方の諸問題



本資料の作成にあたって、上越教育大学大学院言語系コース修了生近藤聖子氏、学習臨床コース修了生・井上幸信氏、同学部卒業生大澤美次子氏、金沢大学教育学部卒業生・中島知子氏の協力を得ていることを明記し感謝いたします。

# 正しい持ち方をしてしていますか？



n している :

n していない :



# 持ち方の諸問題

- n 正しい持ち方ができない子どもが多い！
- n 正しい持ち方でなくても書けるのに！
- n 正しい持ち方とは何？
  - n 学習指導要領の解説などでは？
- n 正しい持ち方に対する批判
- n どのように教えるか？

# この数年の動向



学習指導要領解説 国語編

- 機能性に裏付けされたものである必要

魚住 『現代筆跡学序説』

- 書写の教科書に示されているお定まりの姿勢  
および執筆の示範図は、全く現実離れして  
いて使いものにならず、

近藤（2000書写書道教育学会）

- 正しい持ち方 から 望ましい持ち方へ

# 小学校学習指導要領 と 解説 国語編 より

姿勢や用具の持ち方を正しくして丁寧に書くこと。

- 「正しい持ち方」の「正しい」とは、文字を書く運動を高める機能性に裏付けされたものという意味であり、形式的な形のみを指すものではない。例えば、執筆に際して親指が人指し指の先より下がった場合、筆先を親指の先端が隠すため、児童は横から紙面をのぞき込む姿勢をとる。このような執筆傾向への視点が欠落したままで、「背筋をまっすぐ伸ばす」といった指導のみが加えられた場合、児童は筆先を注視することなく文字を書くことになる。
- 鉛筆の持ち方で特に留意することは、親指の先が人さし指の先より下がらないこと、人さし指がかどばらないようにすることなどである。鉛筆の持ち方については、書写学習の初期において個別指導などによって十分に身に付けるように指導することが大切である。

# 魚住 『現代筆跡学序説』より

■ 書写の教科書に示されているお定まりの姿勢および執筆の示範図は、全く現実離れして使いものにならず、

## ■ 実態

┆ 指先でつまむように持つことを模範として示し

## ■ 原因：

┆ 書道の大家が監修

┆ 毛筆書につねに理想があり、、

## ■ 問題点

┆ 頼りなく力が入らない持ち方では、児童が能率良く文字が書けるはずがない

# 「望ましい持ち方」という概念（近藤）

「正しい持ち方」



問題点

- n 正しい持ち方でなくても書ける！
- n 他の持ち方は、間違いなの？
- n 個人的特性の問題は？

## 提案 「望ましい持ち方」

- n 典型となるベストな持ち方
- n その段階にいたるまでのベターな持ち方
  - n 具体的特徴は何か？
  - n 特徴の重要度は？
  - n どのような点で不都合が生じるのか？



# 課題の整理

学習指導要領

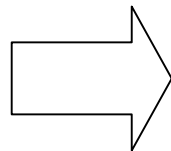
- 用具の持ち方を正しくして **正しい持ち方とは？**

学習指導要領解説 国語編

- 機能性に裏付けされたものである必要

酒井

- 根拠の研究は必ずしも多くない



- 望ましい持ち方の特徴
- 根拠：合理性についての理論的仮説
  - 先行研究から
  - 視線・姿勢、書字運動・字形等との関連
  - メカニズム的に
  - 硬筆筆記具の持ち方に限定

# 「典型とされる持ち方」の特徴

- n 16項目の確認
- n 持ち方の図・記述
  - n 書写教科書 36冊
  - n 市販図書 17種

項目	確認	図	記述
1. 筆の持ち方	○	○	○
2. 筆の握り	○	○	○
3. 筆の角度	○	○	○
4. 筆の先端部	○	○	○
5. 筆の握り位置	○	○	○
6. 筆の握り姿勢	○	○	○
7. 筆の握り強度	○	○	○
8. 筆の握り柔軟性	○	○	○
9. 筆の握り安定性	○	○	○
10. 筆の握り滑り	○	○	○
11. 筆の握り摩擦	○	○	○
12. 筆の握り圧迫	○	○	○
13. 筆の握り弛緩	○	○	○
14. 筆の握り緊張	○	○	○
15. 筆の握りリラックス	○	○	○
16. 筆の握り適度	○	○	○

## n 筆記具に接する指の位置：

- n 親指 = 第一関節より先の中央部
- n 示指 1 = 第一関節より先の中央部
- n 中指
- n 示指 2 = 第3関節から第2関節の間

## n 指の位置関係（指が接する筆記具の位置）：

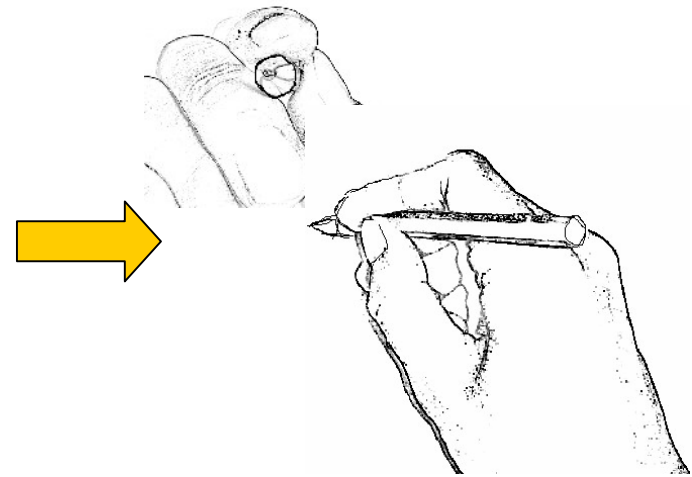
- n 示指 1 = 筆記具の先端部（鉛筆の場合、削り際のやや上）
- n 親指 = 示指より先端部から離れた位置

## n 角度

- n 前方から見て20度程度、側方から見て60-70度程度。

## n 机に接する指と形状：

- n 中指/薬指/小指をそろえた状態で軽くまるめ、小指が机に接する。



# 「典型とされる持ち方」

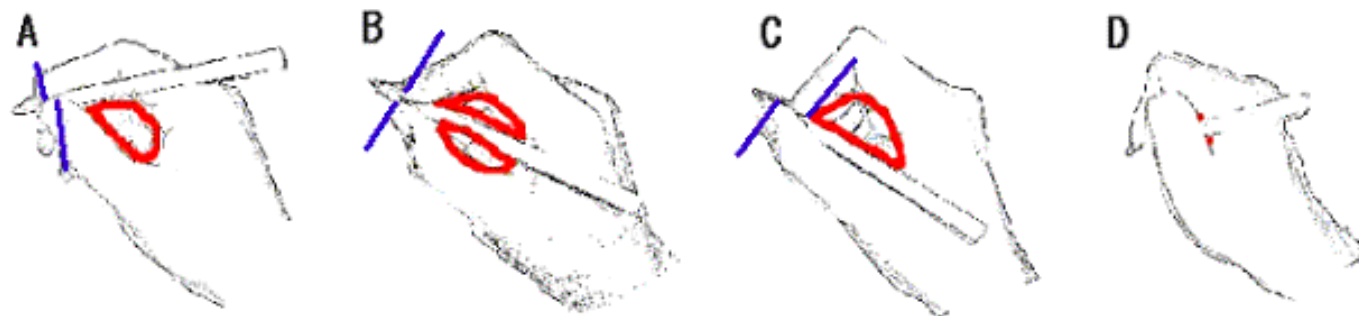
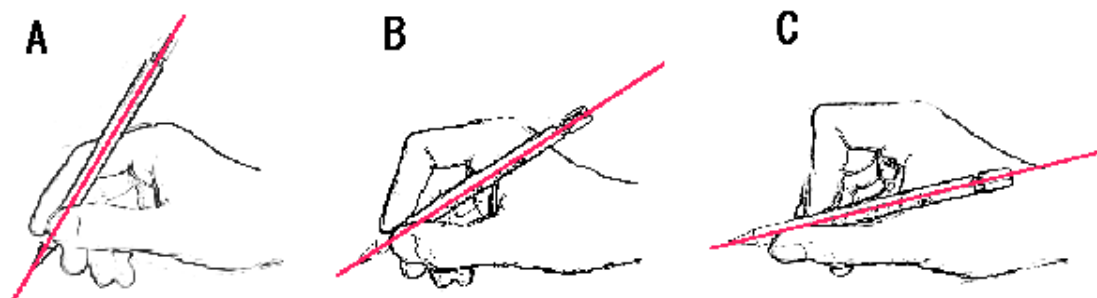
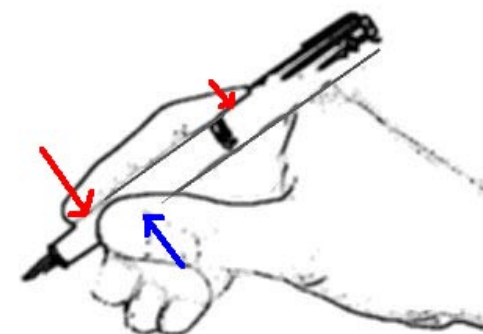
～ 相互に関係する特徴～

n 筆記具の角度（空間）

n 筆記具が指に接する位置

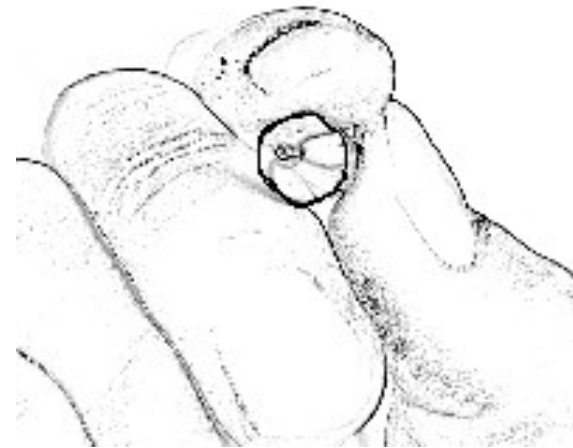
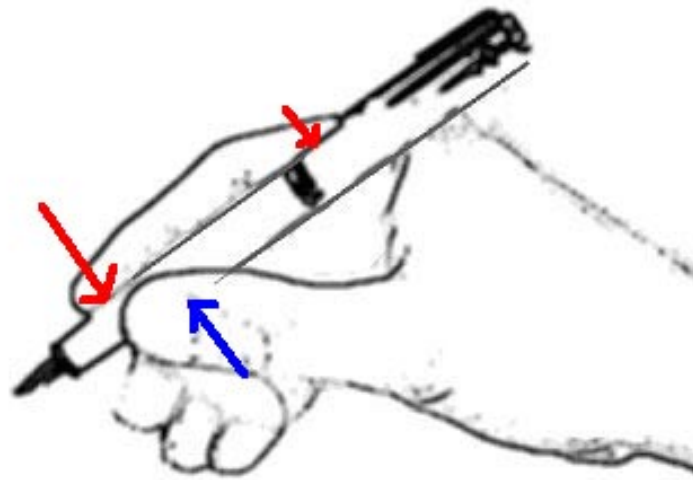
n 指が筆記具に接する位置（指の位置関係）

n 指の形状



# 「典型とされる持ち方」

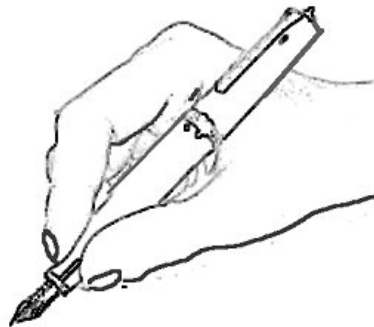
~ 重要なポイント ~



# 「典型とされる持ち方」に指摘される問題



日本： 典型とされる持ち方  
英国： 古くから典型とされた持ち方



典型とされる持ち方

## n 魚住

n 頼りなく力の入らない持ち方

n 軸部を親指と人差し指の付け根の間にもたれさせるように

## n 杉崎

n シャープペンシル: ガイドパイプが紙に接触しないよう軸を立てる必要

## n Sassoon

n 伝統的なペンや鉛筆には適していても現代の筆記用具に適さない

n 現代の筆記具のためにはこの持ち方以上に筆記具を立てて持つ必要

n 人差し指の曲がりの問題も、筆記具の角度との関連があること

# 「典型とされる持ち方」の変化と漢字書字

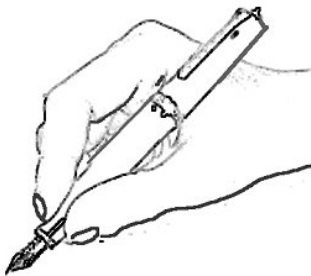


n 日本における現在の典型

n 角度の維持が可能

n 書けないわけではない！

n なぜこのように持てないか？

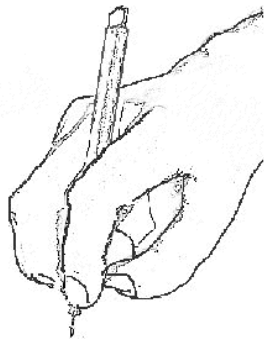


n Sassoon：立てるための方策と問題

n ギュッと握りしめるように持つことで、立てる。 疲れやすい・痛みを生ずる。

n 親指を筆記具の上の方に当てることで筆記具を立てる。 文字を書くための運動を制限してしまう。

n 親指が反るほどに力を入れる。 なめらかな動きを妨げ、疲れ・痛みを生じる。



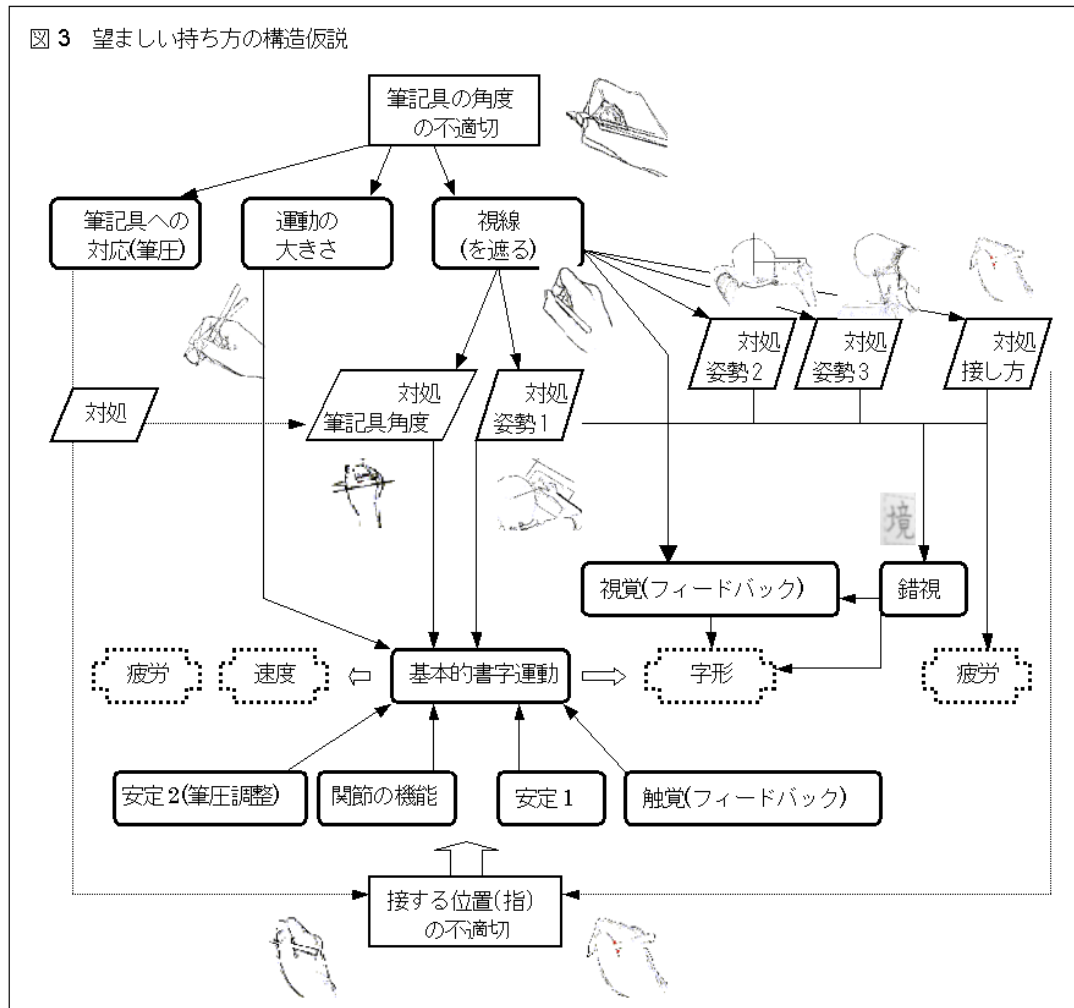
n Sassoon：提案

n 中国における実験では、漢字書字に適さない。

Sassoonによる提案

# 3-2 対処を考慮した構造仮説

図3 望ましい持ち方の構造仮説



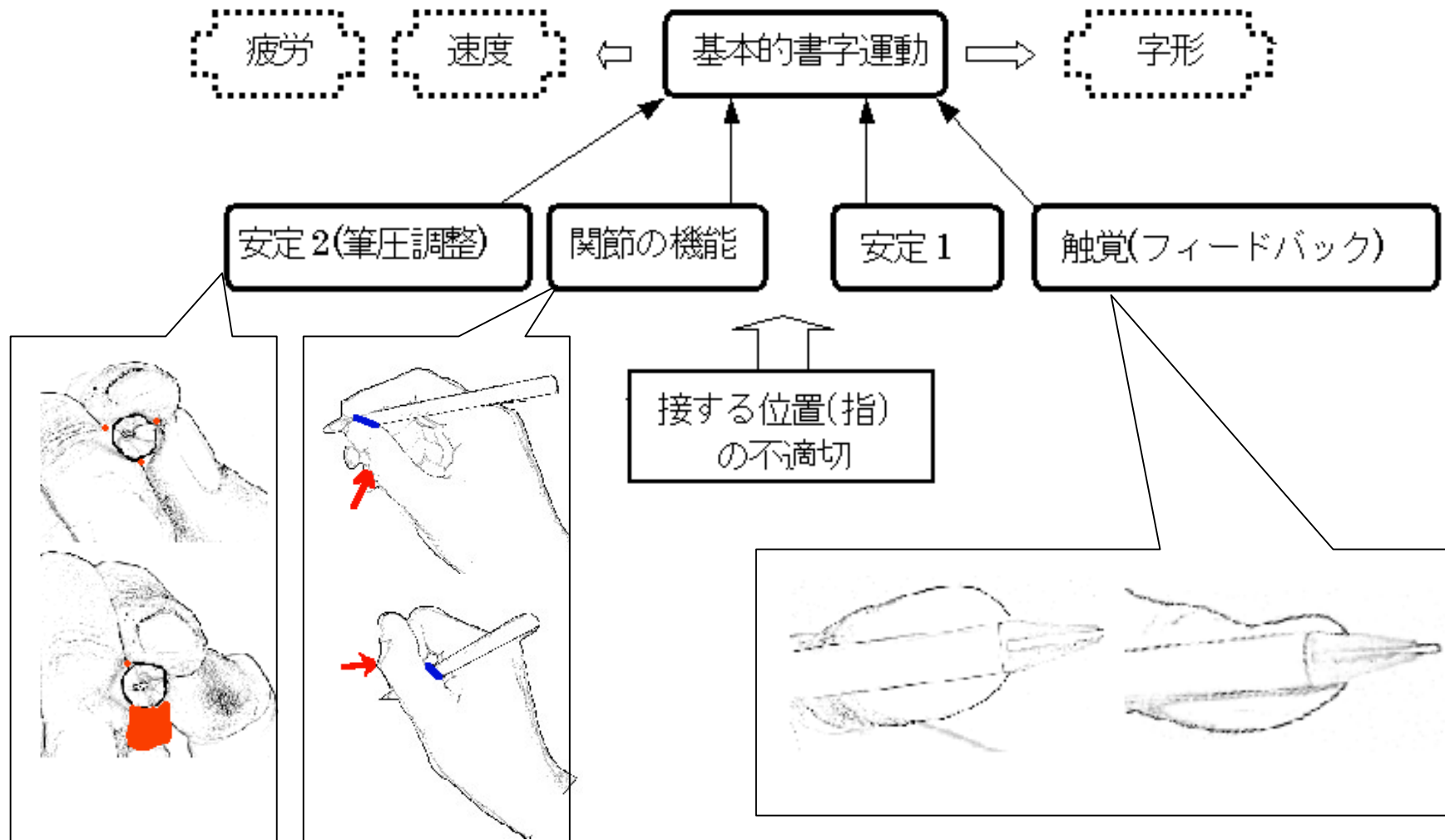
## n 特徴

- n 筆記具の角度
- n 筆記具が指に接する位置

## n 考慮

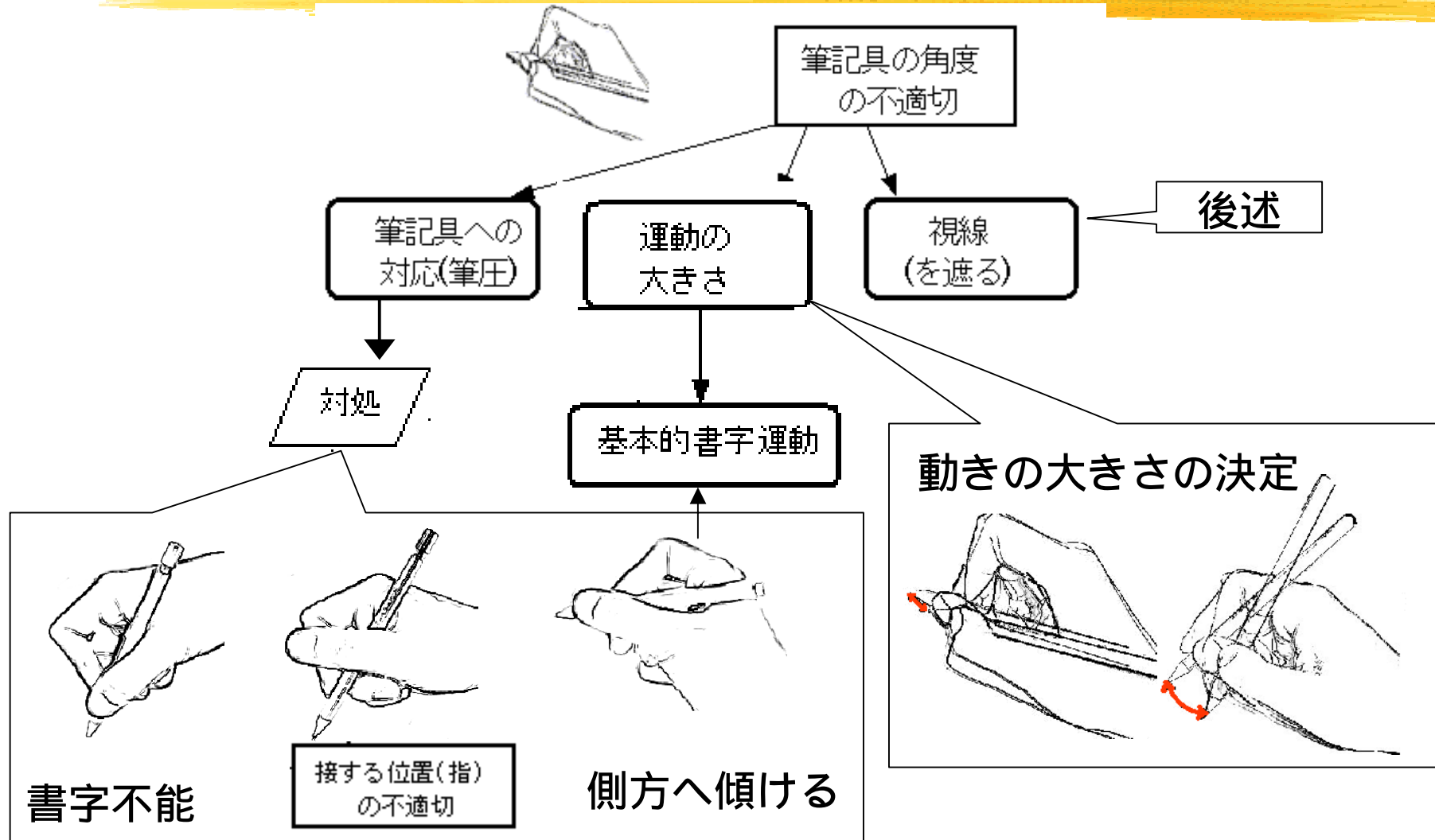
- n 因果関係
- n 対処

# 筆記具に接する指の位置から生じる問題

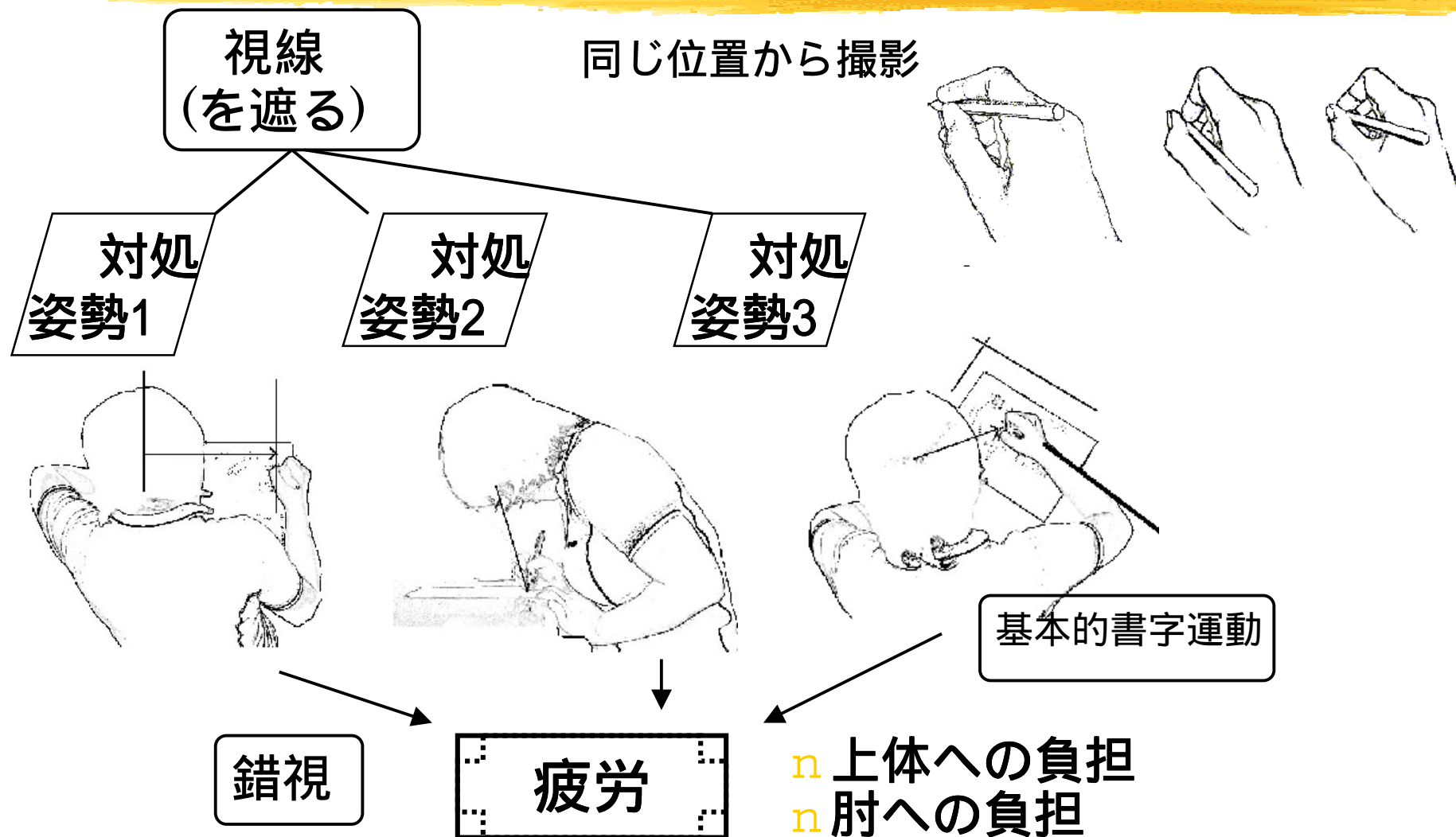




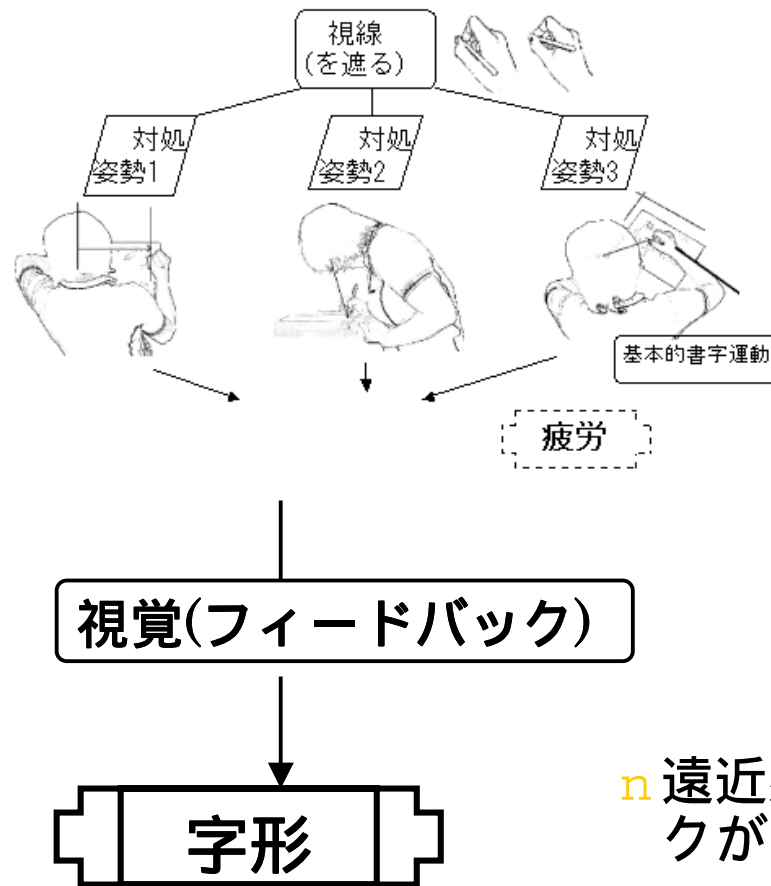
# 筆記具の角度から生じる問題



# 視線と姿勢の問題



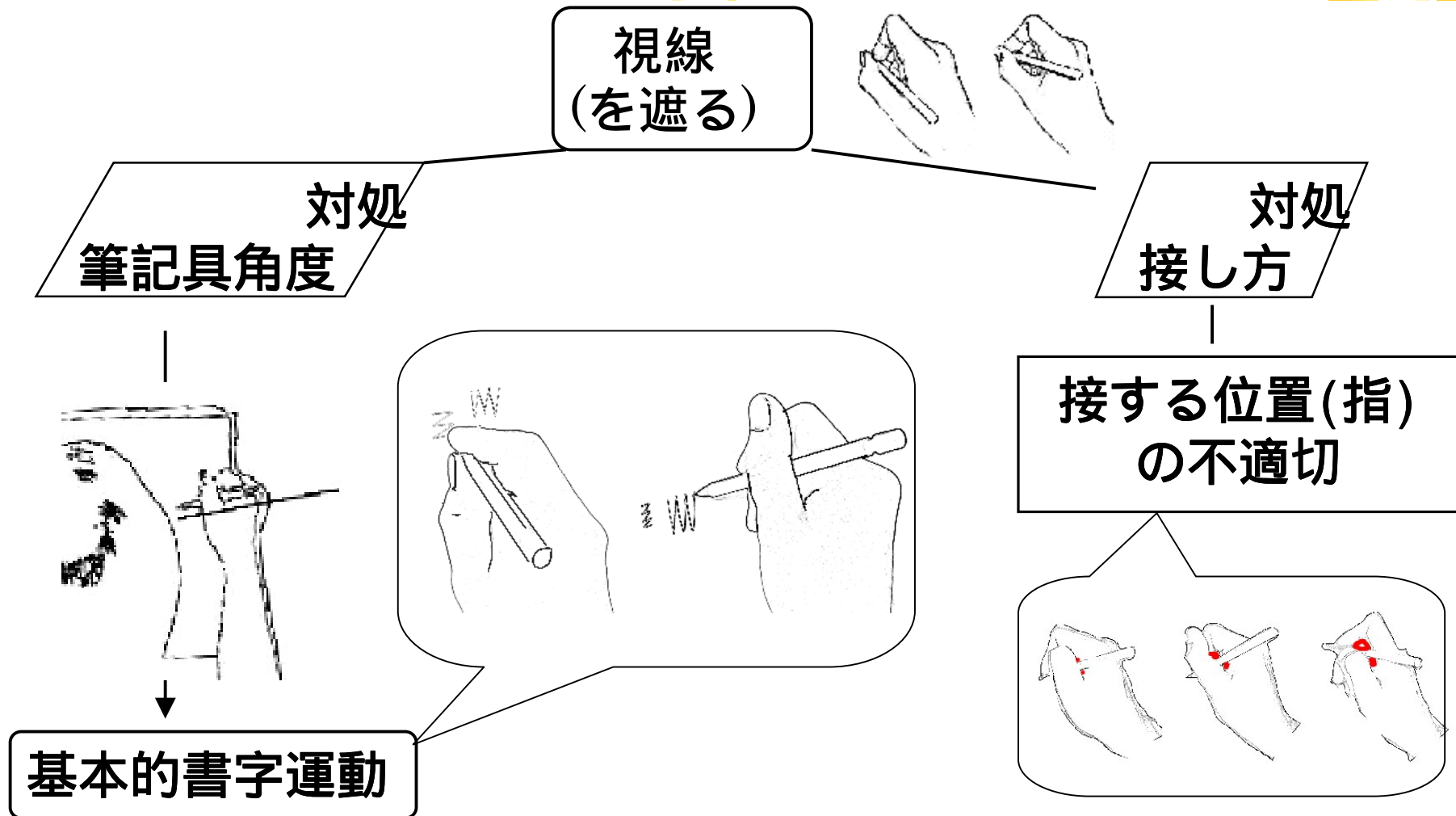
# 視覚によるフィードバックの問題



- n 垂直方向から
- n 左方約45°から
- n 側方から覗き込んだ場合に該当

n 遠近感の問題から、正確なフィードバックができず字形へと影響を及ぼす危険性

# 基本的書字運動の問題等



## 5 まとめ

### 5-1 持ち方研究の中での本研究の意味

#### ■研究の段階

- a. 望ましい持ち方の明確化
- b. 望ましい持ち方の根拠（重要度）の明確化
  - ・ 仮 説
  - ・ 検 証
- c. 望ましい持ち方の指導方法の研究

#### 本研究

- aの明確化
- bのうち重要性の検討をおこないつつその根拠について仮説を提示
  - 有効なものとするには、検証の過程をへる必要
- 実態調査・診断的臨床的研究において、表 1の項目

## 5 まとめ

### 5-2 検証の方法等について

#### ■ 相関

- 持ち方の各特徴間

- 持ち方の特徴

姿勢・視力・疲れやすさ・字形などの相関

- 習慣性の脊椎側彎の問題・視線の問題

#### ■ 力学的・運動学的分析方法

- 筆圧・握圧の調整機能（小竹ら・小竹）

- + 発達段階（大庭）

- 力学的解析・ベクトルの解析（田口・清宮）

# 現在の典型は難しすぎるのか？

左利き 8名(実人数)

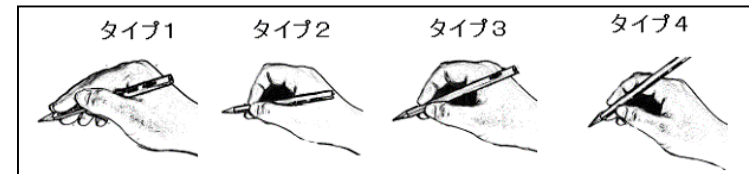
		右 手			
		1	2	3	4
左 手	1	0	1	1	1
	2	0	0	0	0
	3	0	1	1	2
	4	0	0	0	1

利き手が望ましい 13%  
非利き手が望ましい 63%

右利き 60名(%)

		右 手			
		1	2	3	4
左 手	1	0	0	0	0
	2	12	8	10	0
	3	3	15	18	3
	4	7	10	15	7

利き手が望ましい 10%  
非利き手が望ましい 60%



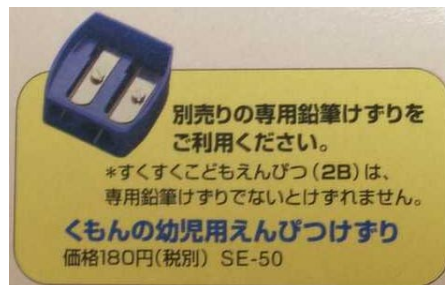
- n 利き手でない方が、
  - n タイプ4 (「典型とされる持ち方」)が多い。
  - n 望ましい持ち方になる。(一部仮説)
- n 「典型とされる持ち方」は、自然な持ち方かも
  - n 書字する過程で変化する比率が高いことも予想される。
  - n 発達段階の問題

# 補：持ち方を直す方法（市販品）





# 補：持ち方を直す方法（市販品） 先端部の3点について



- 軸を3角形にすることで、先の図のように3方向から力を入れやすい持ち方にすることを意図
- 極端に回転(120度)せざるを得ないという点がデメリット
- 他に原因がある場合
- 小さい子どもの場合、削つてある箇所を持たざるを得ず、無理な持ち方に対応。

# 補：持ち方を直す方法 上方位置



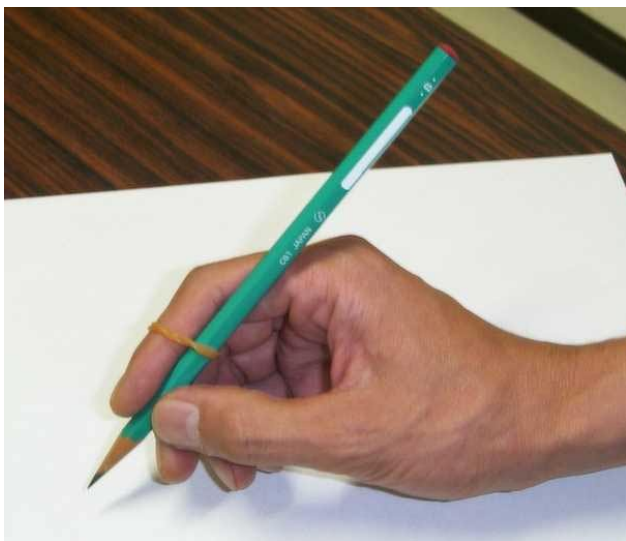
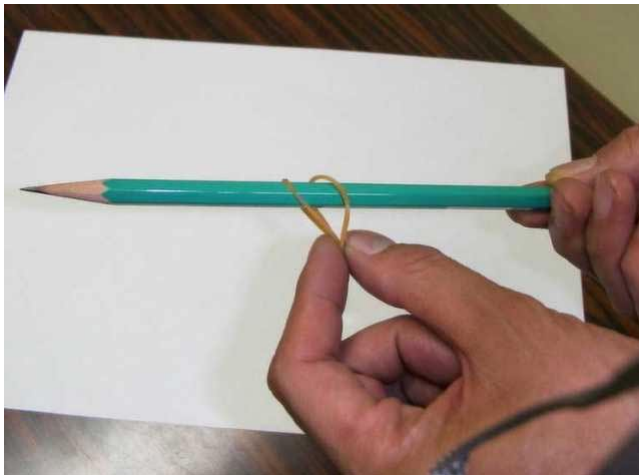
- 上方の位置の両方に対応
- デメリット
  - 手の大きさによって、違和感を感じるという意見が聞かれること
  - 市販品は高価

# 補：持ち方を直す方法（市販品） 先端部の3点と上方位置



- 3方向からと、上方の位置の両方に対応
- デメリット
  - 手の大きさによって、違和感を感じるという意見が聞かれること
  - 回転を必要とする筆記具では使えないこと
- 持ってみて違和感がなければ、ボールペンなど（回転の必要がない筆記具）につけて試してみると良いのではないかと。

# 補：持ち方を直す方法 上方位置



# 補：持ち方を直す方法 上方位置

